

【生成AI、大企業の活用実態は？】

約8割の企業が、自社における生成AIの活用に課題 ～さらなる活用のためにユースケースの実装、UI改善を求める声～

調査概要

調査実施者	テックタッチ株式会社
調査概要	大企業における生成AI活用の実態調査
調査方法	IDEATECHが提供するリサーチPR「リサピー®」の企画によるインターネット調査
調査期間	2024年3月6日～同年3月7日
有効回答	生成AIを活用している大企業(従業員数1,000名以上)の会社員416名 ※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはなりません。

大企業における生成AI活用の実態調査

TOPIC 01

勤務先企業全体の活用状況、
職場で生成AIを活用できているのは、**約1割**

TOPIC 02

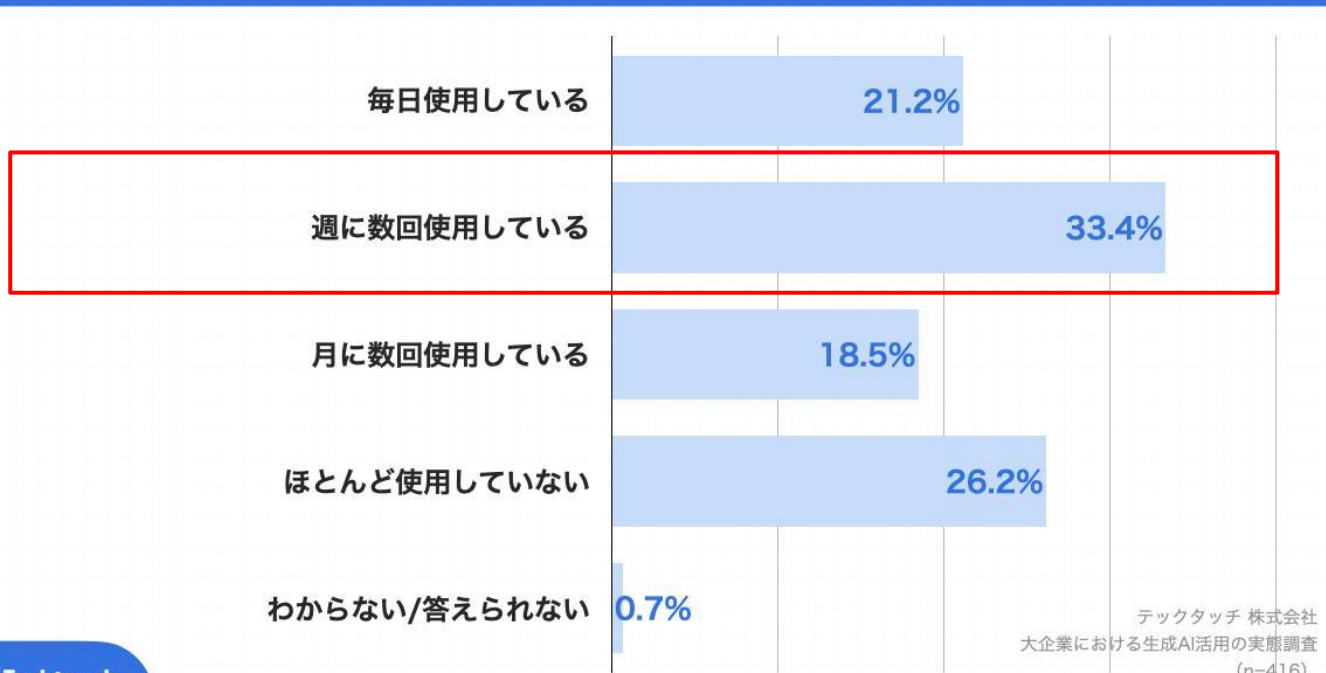
生成AIの使用用途は、「文章編集・添削」**58.6%**、
「プレゼンテーション資料作成」**42.8%**等

TOPIC 03

約8割が、自社における生成AIの活用について「課題を感じる」と回答

Q1

あなたは、業務上、ChatGPTなどの生成AIをどのくらいの頻度で使用していますか。



テックタッチ 株式会社
大企業における生成AI活用の実態調査
(n=416)

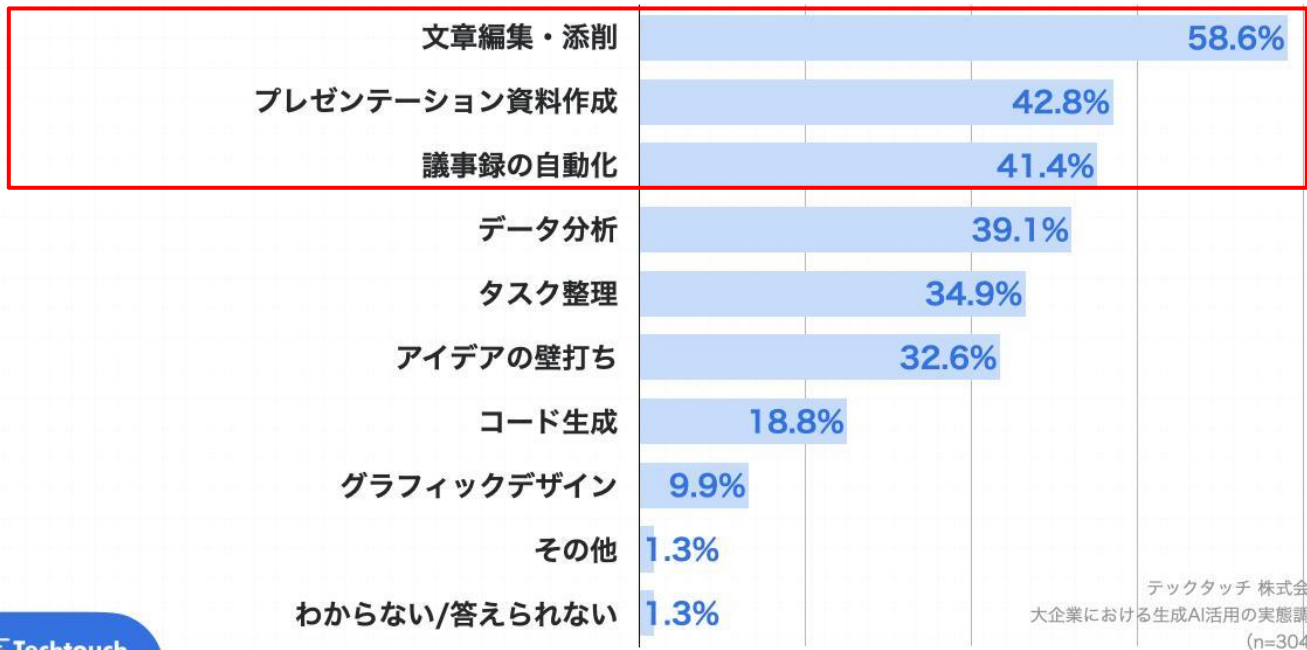
毎日使用はわずか2割。4割以上が日常利用なし

生成AIの普及が進む中、生成AIを「毎日使用している」大企業従業員は約2割ほどに留まっています。

「月に数回使用している」「ほとんど使用していない」従業員が4割以上となっていることから、未だ「日常的にビジネス活用できる」状況にはないことが伺えます。

Q2

あなたは、どのような用途で生成AIを使用していますか。
(複数回答)



テックタッチ 株式会社
大企業における生成AI活用の実態調査
(n=304)

生成AIの使用用途として多いのは、ドキュメント作成の効率化に関わる項目

生成AIの使用用途は、「文章編集・添削」が最多の他、「プレゼンテーション資料作成」「議事録の自動化」等ドキュメント作成の効率化に関わる項目が多いことがわかりました。

データ分析、タスク整理、アイデアの壁打ちなど、業務改善や新規事業創造に関わる項目に関しては、まだまだ生成AIの活用余地がありそうです。

Q3

業務の中で、生成AIをほとんど使っていない理由を教えてください。（複数回答）



テックタッチ 株式会社
大企業における生成AI活用の実態調査
(n=109)

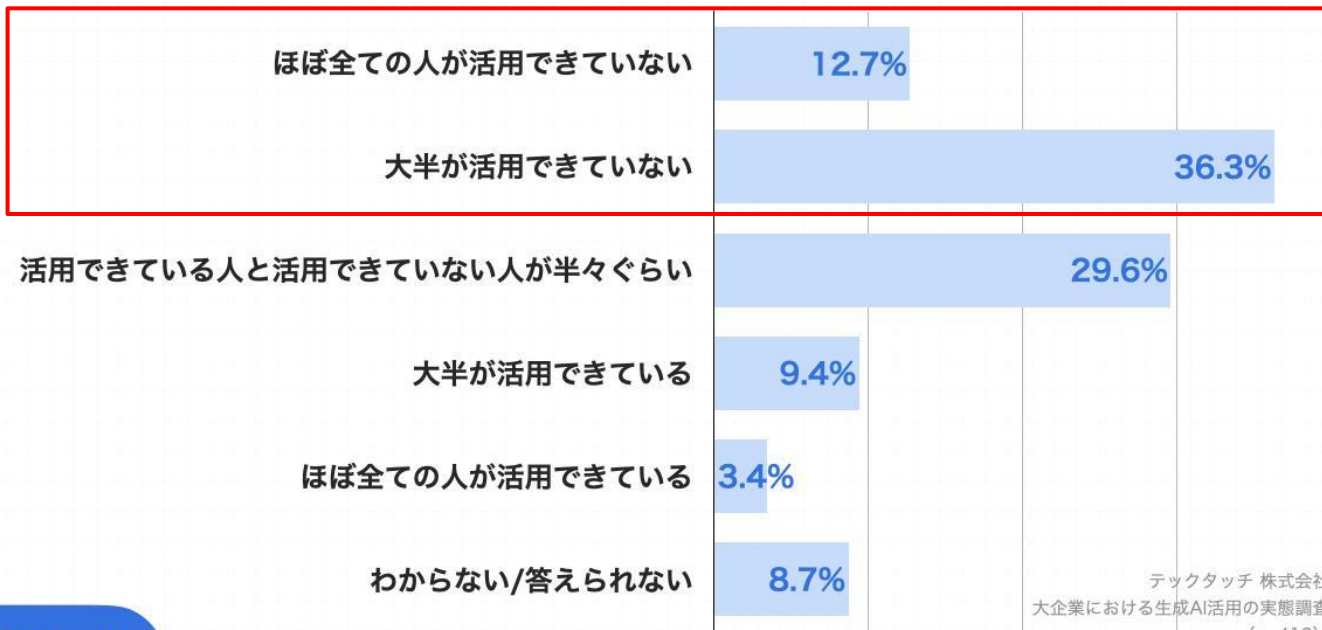
「利用用途がわからない」が3割存在

生成AIをほとんど使っていない理由は「業務に必要なケースがない」が約6割でした。また、約3割が「利用用途がわからない」と回答しています。

また、セキュリティ上の懸念やAIへの無関心、技術の難しさや有益でないとの判断等、生成AIを必ずしもポジティブに捉えていない層もわずかですが存在しています。

Q4

お勤め先全体について伺います。あなたのお勤め先における、生成AIの活用状況について教えてください。



テックタッチ 株式会社
大企業における生成AI活用の実態調査
(n=416)

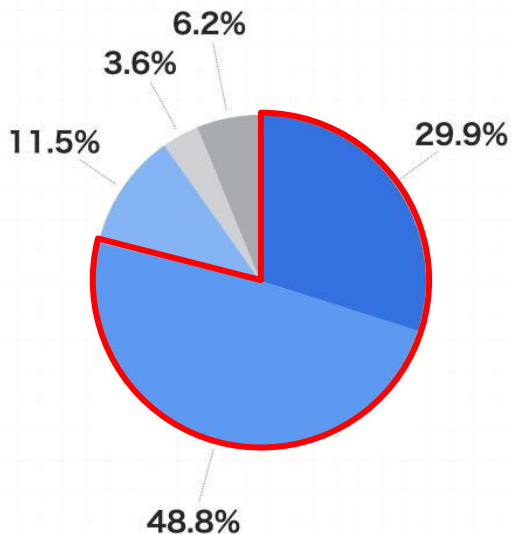
勤務先の生成AIの活用状況、約5割が「活用できていない」

「大半が活用できている」「ほぼ全ての人活用できている」を合わせても、1割程度。

「活用できている人とそうでない人が半々ぐらい」についても3割に留まるなど、大企業においてもまだまだ生成AIは活用されていない状況が明らかになりました。

Q5

あなたは、自社における生成AIの活用について課題を感じますか。



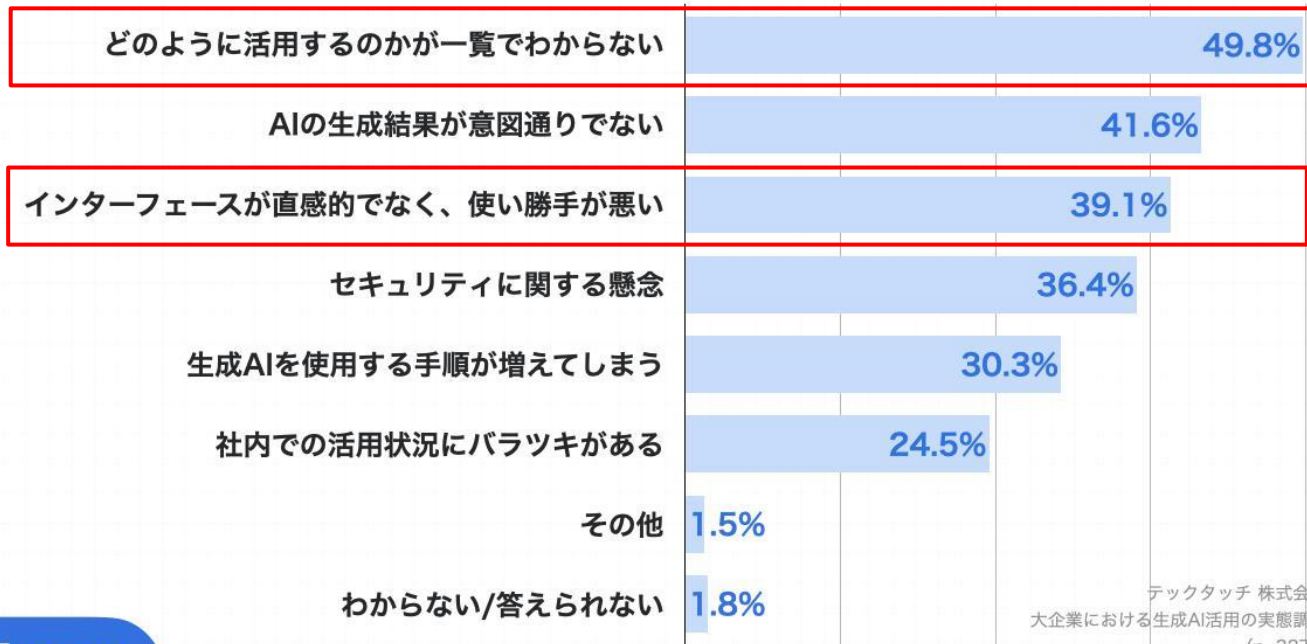
- 29.9% 非常に感じる
- 48.8% やや感じる
- 11.5% あまり感じない
- 3.6% 全く感じない
- 6.2% わからない/答えられない

テックタッチ 株式会社
大企業における生成AI活用の実態調査
(n=416)

約8割が、自社における生成AIの活用に「課題を感じる」と回答

生成AIの活用に「課題を感じている」大企業の従業員は約8割と多く、生成AIを業務に取り入れることに何らかのハードルがあることが伺えます。

Q6 生成AIの活用における課題を教えてください。（複数回答）



テックタッチ 株式会社
大企業における生成AI活用の実態調査
(n=327)

生成AIの活用における課題、「どのように活用するのかがわからない」が最多

約4割が「インターフェースが直感的でなく、使い勝手が悪い」、3割が「生成AIを使用する手順が増えてしまう」等の課題も挙がりました。

業務における活用イメージを伝えたり、UIや手順など生成AIを扱いやすい環境を整えることが重要です。

Q6で「わからない/答えられない」以外を回答した方に、お聞きします。Q6で回答した以外に、生成AIの活用における課題があれば、自由に教えてください。(自由回答)

42歳 著作権の問題。社内データを学習されている可能性が捨てきれない。

39歳 倫理教育や規制、法務整備が追いついていない。

56歳 回答の精度や、入力した内容に関する秘密保持が保たれるのかなどが不安。

53歳 生成物が侵害していないか気になる。

47歳 機能を把握していない。

45歳 検証の手間や時間がかかる。

55歳 生成AIへのプロンプトのやり方が結構難しい。

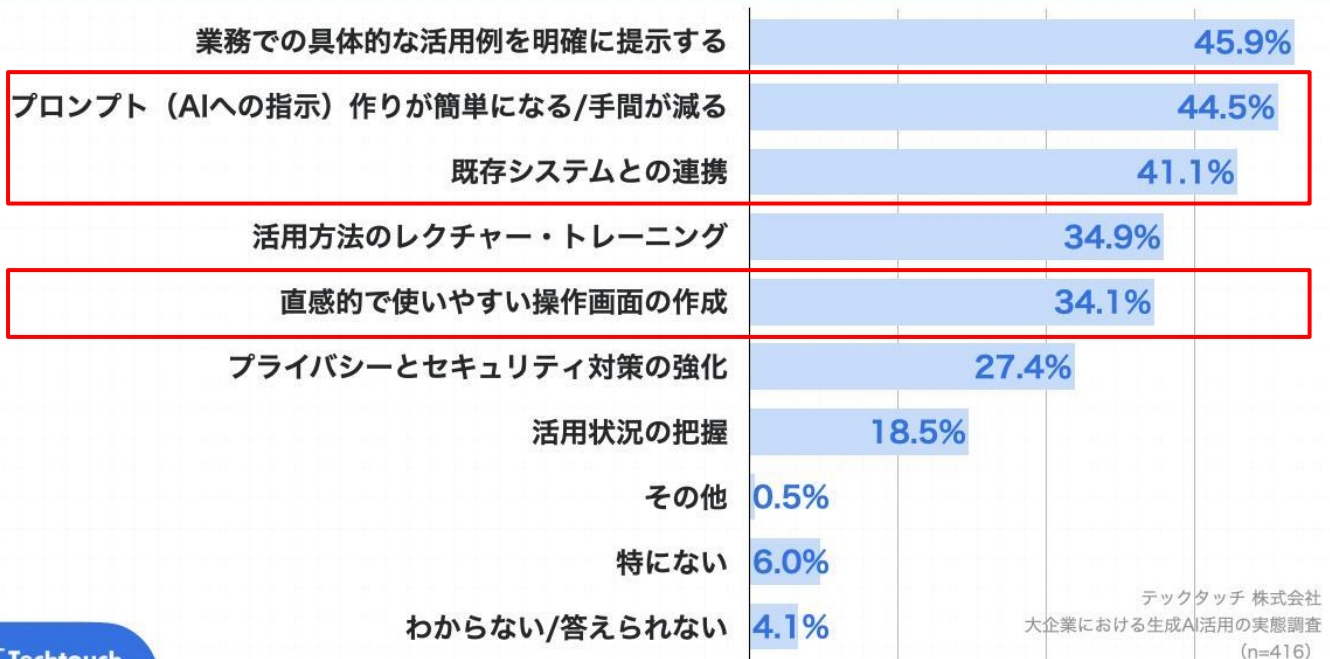
生成AI活用の課題、 「検証の手間や時間がかかる」や「生成AIへのプロンプトのやり方が難しい」なども

自由回答からも、「著作権の問題」、「回答の精度」、「検証の手間」などさまざまな課題が挙がりました。

生成AIにまつわる懸念事項を理解した上で活用していくことも重要でしょう。

Q8

生成AIの活用をさらに促進するために、どのようなことが必要だと思いますか。（複数回答）



テックタッチ 株式会社
大企業における生成AI活用の実態調査
(n=416)

生成AIの活用をさらに促進するために必要なこと、「手間が減る」、「既存システムとの連携」が4割以上

「手間が減る」、「既存システムとの連携」、「直感的で使いやすい操作画面の作成」といった回答から、活用の促進に向けては、生成AIを扱いやすくするための環境設定などがヒントになりそうです。

Q8で「わからない/答えられない」以外を回答した方にお聞きます。Q8で回答した以外に、生成AIの活用促進に必要なことがあれば、自由に教えてください。(自由回答)

- 51歳 ガイドラインの作成と教育。
- 56歳 セキュリティ強化をすることが重要。
- 54歳 生成AI利用、活用方法のマニュアル作成。
- 43歳 ルールが明確でない。
- 61歳 AIを利用した成果物や生成過程の情報共有。
- 40歳 回答が正確でないことがある。
- 31歳 一人ひとりのデジタルの勉強が足りていない。
- 33歳 社内での理解を統一する必要がある

「ガイドラインの作成と教育」や「セキュリティ強化」なども生成AIの活用促進に

生成AIの活用を促進するためには、「ガイドライン・マニュアルの作成」や「生成過程の情報共有」、「社内理解の統一」などの意見も自由回答で挙がりました。

今後生成AIの活用を促進するためには、「社内全体が生成AIについての理解を深める」ことが重要と言えるでしょう。

生成AIを活用している大企業(従業員数1,000名以上)の会社員416名を対象に、大企業における生成AI活用の実態調査を実施しました。

- 大企業におけるChatGPTなどの生成AIの使用頻度、「月に数回使用している」「ほとんど使用していない」が約5割
- 生成AIの使用用途、「文章編集・添削」(58.6%)が最多。
- 生成AIをほとんど使っていない企業の約3割が「利用用途がわからない」(28.4%)と回答

- 勤務先における、生成AIの活用状況、「大半が活用できている」(9.4%)「ほぼ全ての人が活用できている」(3.4%)を併せても約1割
- 「どのように活用するのかが一覧でわからない」(49.8%)や「インターフェースが直感的でなく、使い勝手が悪い」(39.1%)などの理由で、約8割が生成AIの活用において「課題」を感じている
- 生成AIの活用をさらに促進するために必要なこと、「プロンプト(AIへの指示)作りが簡単になる/手間が減る」や「既存システムとの連携」など

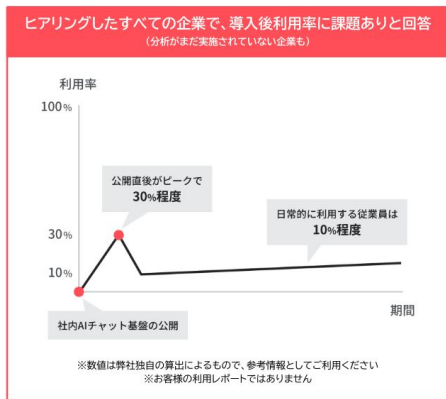
今回の調査では、大企業におけるChatGPTなどの生成AIの使用実態と様々な課題が浮き彫りとなりました。生成AIを導入してみたものの、実際は上手く活用されておらず、多くの企業で課題を抱えていることがわかりました。従業員が生成AIをもっと活用し、業務効率化を促進するためにも、「既存システムとの連携」を図るなど、生成AI活用のハードルを下げるプラットフォームなどのサービスを検討してみてもいいかもしれません。

AIで未来の働き方を創造！企業向け生成AI活用プラットフォーム「Techtouch AI Hub」β版とは

業務システムなどWebブラウザ上のあらゆるページにシームレスに生成AIを組み込み、従業員の業務効率化とAI教育を実現できるサービスです。



導入済みのChatGPT基盤
利活用できていますか？
定着していますか？



AI活用を推進するプロジェクトチームを立ち上げる企業も増えていますが、効果的な活用事例のアイデア出し、自社業務へのカスタマイズ、利用促進などにノウハウがなく、普及が進まないという課題を抱えている企業が多いのが現状です。

▼詳しくはこちら <https://techtouch.ai/>

従業員が使うシステム画面上に、**ChatGPTへの導線を設置**できます。
従業員は**AIへのアクセスが容易**になり、**システムや業務に合わせたAI活用を促進**します。

業務に合わせた回答

システム画面上にChatGPTへの導線を設置

その後、会話を続けることも可能

ユーザーの利用状況を可視化する管理・分析機能も備えています。「Techtouch AI Hub」により、AIをユーザーフレンドリーな存在として活用できる環境を整えることで、従業員、ないし法人のAI利用率向上、それによる生産性向上に寄与します。

設立 2018年3月1日

〒105-7105

住所 東京都港区東新橋1-5-2
汐留シティセンター5階 ワークスタイリング内

従業員数 112名(2024年3月時点)※正社員のみ

累計資金調達額 24億円

投資家情報
一部抜粋

DNX Ventures
アーキタイプベンチャーズ株式会社
DBJキャピタル株式会社
三菱UFJキャピタル株式会社
SMBCベンチャーキャピタル株式会社
みずほキャピタル株式会社
電通ベンチャーズ ほか

日本DX大賞支援機関部門 ファイナリスト選出(2022年)
グッドデザイン賞 受賞(2022年度)
総務省後援 ASPIC IoT・AI・クラウドアワード 基幹業務系
ASP・SaaS部門 準グランプリ 受賞(2022年)
SAP AWARD OF EXCELLENCE2023 Partner
Innovationアワード 受賞(2023年)
経済産業省「J-Startup」選出(2023年)
ITreview 「ITreview Grid Award」3部門にて
「Leaders」受賞(2023年)
東京都ベンチャー技術大賞 特別賞受賞(2023年)

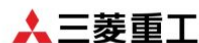
受賞歴

認証



導入企業一覧(社内システムに導入)

2024.03.01 更新

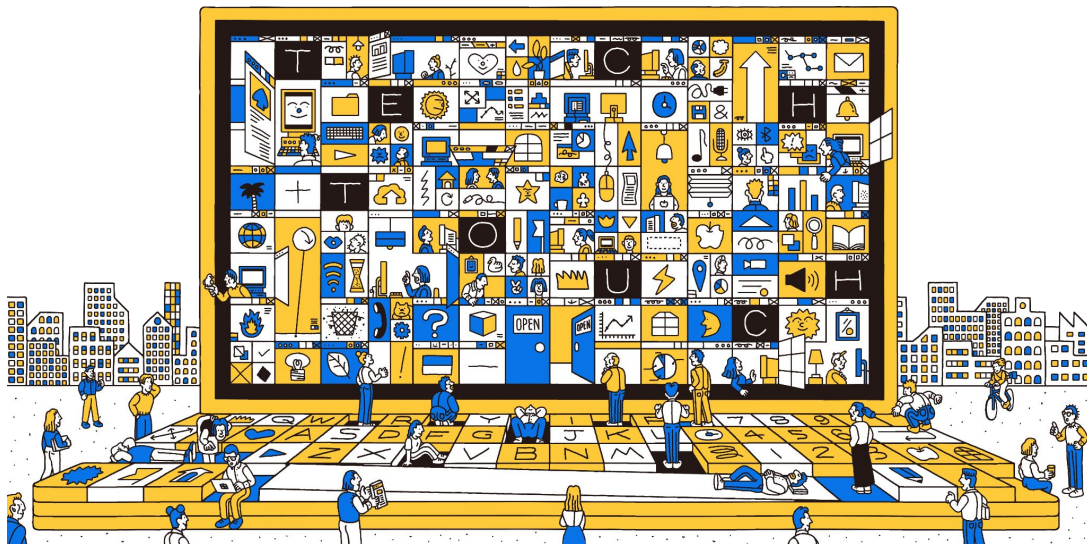


※公表許可いただいている企業・団体様より一部抜粋(企業名、サービス名については50音順)

すべてのユーザーが、システムを使いこなせる世界に

テックタッチは、どんなwebシステムにでも、
誰でもかんたんに操作ガイドを追加できるサービスです。

操作がわからないことから生じるシステムへの抵抗感をやわらげ、
あらゆる人々が思いのままに
システムを使いこなせる世界に変えていきます。





すべてのユーザーが
システムを使いこなせる世界に

システム導入だけで終わらせない、利活用のためのDXプラットフォーム